

恩師からの便り

梅木 伸彦 先生

昭和62年4月～平成7年3月 英語科教諭



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第63号

発行者・会長 都 俊生
編集者・委員長 衛藤 淳
発行所・関東同窓会事務局
〒194-0013
東京都町田市原町田4-17-20
電話 090-2646-4808

<https://kantoutaketa.org/>



梅木伸彦先生の近影

私は昭和六十二年に県立高校教諭として採用され、最初に着任した学校が竹田高校でした。風光明媚な竹田市にあり歴史と伝統のある有名校でしたので、身の引き締まる思いで校門を潜りました。赤煉瓦色の正門に白い校舎、用作公園の遠足、学林作業、臥牛祭、強歩大会、そしてストームなど、竹高ならではの思い出は今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。

こう見えても専門教科は英語でしたが、授業中は脱線することが多く、生徒の皆さんの英語力向上にはお役に立てなかった

気がします。部活動は弓道部を担当していましたが、少しのめり込み過ぎていたようで、先輩教師に「おまえは英語をとるんか、弓道をとるんか」と叱咤されたことがあります。

私は昭和六十二年に県立高校教諭として採用され、最初に着任した学校が竹田高校でした。風光明媚な竹田市にあり歴史と伝統のある有名校でしたので、身の引き締まる思いで校門を潜りました。赤煉瓦色の正門に白い校舎、用作公園の遠足、学林作業、臥牛祭、強歩大会、そしてストームなど、竹高ならではの思い出は今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。

私はすかさず「両方です」と言い返したことを思い出します。家庭訪問では、移動範囲が広すぎて東西南北駆け回り、豊肥地区の地理には詳しくなった気がします。私生活では、現金で頂いた月給袋やポーチナス袋を持って、夜な夜な竹田市内の飲食店に出没したので、商店街にはかなり貢献した気がします。

竹高には八年間勤務し、三度卒業生を送り出しましたが、私の人間形成において、その間出会った生徒の皆さんや先生方、地域の方々のご存在は誠に偉大で、心より感謝しています。



在勤時代

先日、部屋を掃除していたら当時の文集がたくさん出てきました。その中でも三年三組のクラス文集を読んでお腹を抱えて大笑いしたページがありました。生徒の皆さんのアンケートで、私の子どもの名前投票がありました。男の子だったら「輝美」、女の子だったら「輝子」が一位でした。おそらく英語科の後藤輝美先生に由来していることは間違いないとは思いました。後藤先生は私の人生の師であり、お酒の師でもあります。後藤先生は今も相変わらずの「輝美節」で、お元気にされています。また、別のページで、私の夢は「エンデューロバイクで世界各国を巡る」と書いていました。当時の自分を振り返り、身体が老いる前に必ず挑戦しよう、と決意を新たにしたところですが、人はワクワク感を忘れてはいけませんね。

県立学校を退職した私は、現在、竹田市内にある稲葉学園高校(旧竹田南高校)に勤務しています。毎日、大分市から片道一時間かけて通勤しています。竹田の街中は当時とは少し変わっていますが、熟年を迎えた

卒業生の皆さんも多くいますので、故郷に帰ってきたような気持ちで働くことができている。私を成長させてくれたこの竹田の地に、少しでも恩返しができればと頑張りたいと思います。

最後に卒業生の皆さんに、ちょっとひと言。『時は得難くして失い易し』。これは司馬遷の言葉で、「人生の中でチャンスはそう何回も巡ってこない。たとえ巡って来たとしても、気付かないうちに取り逃がしてしまいますよ」という意味です。そして、「挑(いとむ)」という漢字。これは、未来を表す意味の「兆(きざし)」に、自分の未来は自分の手で掴むものという意味で「へん」が付いて、「挑」という漢字になったそうです。卒業生の皆さんにとつて、今がそのチャンスかもしれません。それを見逃さず、是非、新しい自分の未来に挑戦していただきたいと思えます。私は、教員人生を始めたこの竹田の地で、教員人生を終えるご縁を得ました。もう少し、新しい自分の未来に挑戦してみようかなと思っております。

では、このコロナ禍が過ぎたら、久しぶりに同窓会等で再会したいと思えますし、どこかですれ違ったら気軽にお声をかけていただけると有難いです。竹高卒業生の皆さんのご活躍とご多幸を祈念しております。

令和5年 春の役員会・幹事会報告



幹事長
後藤 修
(昭50年卒)

令和5年4月1日(出)、アルカディア市ヶ谷にて役員会・幹事会が開催され、以下の事項について協議を行いました。

■令和5年関東同窓会総会・懇親会の開催について

コロナ禍で昨年は総会のみでしたが、今年は4年ぶりに総会・懇親会のフルバージョンで開催されることが企画委員長から報告されました。

開催日は7月1日(出)で、東京プリンスホテルにて開催予定です。

当番幹事の昭和57年卒と平成4年卒が出し物等を企画し、内容としては竹田や豊後大野市の魅力を発信している「YouTuberの「とよたまさんぽ」さんと、竹田を愛する全ての人と共に豊かな暮らしと竹田の未来を創造する」を経営理念とする「まちづくりたけた株式会社」の工藤隆浩専務取締役をお招きし、現在行っている活動をインターネット等の映像を交えてお話ししていただくこととしています。また、故郷の物産品販売も4年ぶりに開催する運びであること

とが報告されました。

■関東同窓会の収支状況について

総務委員長から、昨年7月に開催した総会(懇親会無し)では参加費を徴収しなかったこともあり、総会収支は約80万円の赤字であった旨、また総会収支を含めた同窓会年間収支は、例年並みの維持会費の納入があったこともあり約32万円の赤字であったと報告されました。

令和5年度の年間予算では、総会・懇親会を4年前と同様の8,000円会費で実施することが決まっております。維持会費が現状の納入額を維持できた場合でも会場費及び物価高騰等の

中、赤字が予想される旨も併せて報告されました。

■会員確保の方策について

組織委員長からは会員の減少に対する方策として、手始めに総会案内を送付する機会に会員同窓会に対する意識調査を行いたい旨の報告があり、実施する運びとなりました。

また、会員確保の一助として竹田高校の生徒に関東同窓会の存在を知っていただきたいとの思いを込め、今年の卒業式に関東同窓会として祝電を送らせていただいたことが報告されました。

■臥牛の発行及び大志文庫について

広報委員長から会報誌「臥牛」と「大志文庫」について報

告がありました。

会報誌「臥牛」の発行は2021年に年2回から1回(春号のみ)に縮小されましたが、役員改選が行われた年は臨時号(秋号)を発行することとしており、2022年はその役員改選が行われたことから、秋に臨時号を発行しました。春号と同じ8ページ立てで、3年ぶりに開催された総会のレポートと合わせて新役員体制も掲載し、会員の皆様に周知を図りました。また、母校支援活動の一環として取り組んでいる図書寄贈「大志文庫」も新規で22点を贈ることができました。

今後は、関東同窓会のホームページの充実を課題として、皆様声をリアルタイムで反映できるように改善することとなります。

令和4年度 年間収支&年間予算 (確定版:2023.3.31)

項目	R3年	R4年
	決算	確定版
総会収入		
総会会費	0	0
総会祝儀	0	10,000
売店収入	0	0
販売手数料	0	0
小計	0	10,000
総会費用		
ホテル支払	0	365,420
来賓土産/御礼	0	76,622
酒持込代	0	0
本部売店仕入	0	0
イベント費	0	50,000
記念イベント	0	0
会員土産代	0	150,000
DVD諸経費	0	0
印刷費(注)	61,000	104,750
通信費	0	30,456
備品その他	0	2,020
その他諸掛	0	22,872
小計	61,000	802,140
総会収支	▲61,000	▲792,140

(同窓会運営関連)		
維持会費収入	1,471,000	1,422,000
経常費用		
会報費	279,560	546,575
会議費	144,323	184,720
名簿費	13,572	27,500
HP費	101,008	47,108
幹事助成金	0	0
組織活動費	2,052	18,000
慶弔費	43,000	27,016
寄付金	0	0
新規事業	0	0
事務通信費	58,401	71,289
通信費	5,574	7,817
諸会費	0	0
手数料	45,550	44,635
荷造運賃	2,960	1,510
事務消耗品	4,317	17,327
母校支援費	34,810	23,243
母校120周年事業(H29)	0	0
小計	676,726	945,451
維持会費収支	794,274	476,549

雑収入	30	31
寄付金収入	0	0

合計	733,304	▲315,560
-----------	----------------	-----------------

次期繰越金	4,652,014	4,336,454
--------------	------------------	------------------

(注) 印刷費: 案内状/プログラム

活発なコミュニケーションが行われた交流会



午前8時45分より、9つのグループに分かれ、先輩方に仕事の経験談を伺いながら、高校生の今だからこそ付けておきたい力について考える機会を得ることができました。成功するためには継続することが肝心であることや、起こった出来事に対して人のせいにならないことなど大変参考になるお話ばかりでした。また、都心の生徒は金融を学ぶ機会が多かったり、アメリカではまとまったお金を子どもたちがやりくりする機会があったりといったお話が印象的だったと述べる生徒も複数いました。

1時間という限られた時間でしたが、貴重な機会をいただいた先輩方の温かさに対して感謝の気持ちでいっぱい입니다。会の最後に

母校の話題

修学旅行生との交流会を3年ぶりに実施 同窓生の心と心のふれあい復活

竹田高等学校 2学年主任

井上裕之先生

令和4年12月9日より13日にかけて4泊5日の日程で長野、東京方面への修学旅行を無事に実施することができました。

12月12日には、都俊生関東同窓会・会長をはじめ、9名の先

輩方に本校生の宿泊先であるオリエンタルホテル東京ベイ（千葉県浦安市）にお越しいただき、2年生106名と交流会を持ちました。コロナ禍の影響による3年ぶりの開催ということも重なり、喜びは大きなものでした。

は短時間ですが、参加者全員でストームを実施することができました。ストームがもたらす熱気や一体感のすばらしさに感動しました。

今回の交流を通して、改めて竹田高校のつながりの強さや気持ちの温かさを実感しました。会の開催に際しては多くの方にご尽力をいただき、誠にありがとうございました。ご縁を大切に、竹田高校を全員で盛り上げていきます。今後とも母校ならびに後輩たちをどうぞよろしくお願い申し上げます。

OB・OGとグループに分かれて懇談



首藤正幸さん（平4年卒）



岩男暁子さん（昭62年卒）



森 純洋さん（昭58年卒）



飯田良典さん（昭51年卒）



都 俊生さん（同窓会長・昭44年卒）



辻正太郎さん（昭49年卒）



田部 厚さん（昭40年卒）



後藤 修さん（昭50年卒）



栗田信子さん（昭41年卒）

修学旅行生との交流会に参加して



首藤 正幸
（平4年卒）

令和4年12月12日の修学旅行生との交流会にお招きいただきありがとうございます。

どんな勉強をしていましたか、部活との両立のコツは何ですか、どんな仕事をされていますか、現役生から多くの質問を受け、積極性を感じました。将来への期待の中に不安や悩みも感じつつ、また修学旅行を楽しんでいる姿を見ることが

でき、一生懸命頑張っているなあと嬉しくなりました。

自分の目標が決まっていなくても、まだ見つかっていなくても心配しないでください。まずは興味のあること、面白そうだと感じたことを大切に、まずはやってみる、行動する、その経験によって次に進むべき道が見えてくるはずです。

私自身も30歳まで悩みながら、迷いながら生きてきましたが、縁あって今の会社に就職し20年立ちました。仕事が面白いから働き続けています。好きなコトを仕事にするより、仕事を好きになることが継続のコツだと思います。仕事でも趣味でも自分のこだわりポイントを見つけて人生楽しんでください。

修学旅行中の竹田高校生、 里見奨学生8名が 日本パーカライジングを訪問

令和4年12月13日(火)9時30分～10時30分、修学旅行の一環で企業訪問として、里見奨学生である竹田高校2年生8名が日本パーカライジングを訪問しました。里見奨学会並びに老人はげみの里見会の理事及び高校の先輩である事務局員が温かく生徒を迎えました。田部(昭和42年卒)里見奨学会事務局長の歓迎



櫻田啓さんの新作 小説用明天皇

田部修士(昭和42年卒)

櫻田啓さんの新作『聖徳太子の父 小説用明天皇』が、昨年暮れ12月に出版されました。九州、特に大分熊本を舞台にした小説で、豊後大野に残る炭焼き小五郎伝説(真名野長者伝説)をモチーフにされた小説で、大分の馴染みの地名が随所に出てきます。もちろん竹田も



(SAIKI出版刊)

挨拶、菅(昭和40年卒・老人はげみの里見会常務理事)前関東同窓会長の挨拶の後、生徒たちは、差し入れのタピオカを味わいながら、現在の活動と将来の夢などについて発表しました。最後に、生徒代表が奨学会への感謝の言葉と共に「お礼の寄せ書き」を渡し、次の目的地である横浜山下公園へ向かいました。

登場し、熊襲の一族で萩周辺に強い勢力を持った土蜘蛛一族も登場します。

用明天皇は2年余りの短期の在位ではありましたが、日本の仏教興隆に大きな役割を果たし、その意思は息子である聖徳太子に引き継がれて、冠位十二階や十七条憲法の制定、その他法隆寺の建立等大和の国家としての礎が築かれました。

少し脇道にそれますが、聖徳太子が小野妹子に託した手紙が当時の中国(隋)の皇帝煬帝を激怒させました。その書出しは皆様も良くご存知の「日出ずる処の天子書を日没する処の天子に致す」で始まります。外国の要人と接する我が国の人達にも折々に思い起こして頂きたいものと思います。

さて物語に戻りますが、若き日の用明天皇を含む5人の若き修行者が飛鳥の都から中国を目指して旅立つところから話が始まります。ところが旅の途中で若者一行を導く土地の有力者との出会い、その導きで若者たちの外国の高度な文明を学んで都に持ち帰ろうとする目的は、当時既に中国から様々なものが伝わっていた九州で果たせることが分かり、野津原(白杵)竹田(阿蘇)熊本(福岡)玖珠(九重)と旅を重ねながら苦勞の末、目的を果たして都に帰る物語です。途中で若き日の用明天皇が豊後の有力者の娘・般若姫(真名野長者伝説にも出てきます)と結ばれる恋の物語もあります。ぜひ一度手にしてみてもいかがでしょうか。

瀧廉太郎没後120周年 記念コンサート

竹高OB・OGは、6/29・上野 旧奏楽堂に集合!!

今年、瀧廉太郎が23歳で没して120年という節目を迎えました。

この記念すべき佳節に廉太郎の母校であり、廉太郎自身もピアノ演奏をした旧東京音楽学校奏楽堂において記念コンサートが催されます。

その注目すべき演奏を担うのは、TAKETA室内オーケストラ九州というプロオーケストラです。同オーケストラのコントラバス奏者でプロデューサーの森田良平氏は「瀧廉太郎は西洋音楽を取り入れた唱歌で知られていますが、実は日本で初めてクラシック楽曲を作曲した音楽家でした。その代表作『メヌ

エット』と遺作である『憾』をぜひ皆さんにお聞きいただきたいです」と語っています。

「TAKETA室内オーケストラ九州」は、2020年にグランド支援事業を行った際に参加したアーティストたちを中心に、大分県で初めて結成されたプロオーケストラで、事務局は竹田市に置かれています。

この機会に瀧廉太郎の深い音楽性を鑑賞してみたいものです。



TAKETA室内
オーケストラ九州
森田 良平氏



TAKETA室内オーケストラ九州(第1回東京公演)

日時: 令和5年6月29日(木) 18時30分開場 19時開演

会場: 旧東京音楽学校奏楽堂(上野公園内)

主な予定プログラム: 「荒城の月」「箱根八里」「メヌエット」「憾」他

主催: 一般社団法人九州シテイフィルハーモニー協会

チケット料: 5000円(当日5000円増)

チケット申し込み方法: 次の内容を明記の上、Eメールにてお申し込みください。メール件名に「竹田高校OB チケット希望」

①住所 ②メールアドレス ③氏名 ④枚数

申込先メールアドレス: rmstrings2012@yahoo.co.jp

【注意】 前売り完売の場合は当日券の販売はございませんのでお早めのご予約をお願いいたします。

生窓 同登場

トップガン 大空にカンパイ 近藤 武仁さん(昭41年卒)



現在、私は柏市役所教職員課

の年度任用職員として小中学校の用務員をしています。時々ボランティアで生徒に、夢のタイトルで現役時代のパイロットの話をしています。

みなさん、夢を持っていますかの問いかけから始まり、
○なんで鉄の塊が空をとべるの？
○雷が落ちることがあるの？
○飛行機が飛ぶ道路があるの？
○燃料はドラム缶で何本ぐらい積むの？
と続きます。そして、

・大空の三次元運動(重力(G)、アクロバット飛行等)の話
・ミッションの話
・国を守る(みなさんを守る)話
・パイロットの世界で感じたこと

・夢に向かって情熱と勇気をもって挑戦を続けることの大切さ

など、約一時間ほどの講話です。生徒の反応は様々で、



上：新年の祝賀フォーメーション
中：パイロットの飛行服用
下：中学生への講話中のコマ

○夢をもつことは大切なんだ、私も夢をもって頑張りたい。
○自衛隊は災害が発生した時に国民を助けてくれるというのが良く知っているが、毎日こんな厳しい訓練をして僕たちを守ってくれていることを知らなかった。
○パイロットは飛行機を飛ばすために様々な職種の人たちが支援していることに常に感謝しながら飛んでいるとの話に、私も周りに感謝できる人になりたい。

○パイロットは楽しそうだ、という生徒もいました。
その他にもたくさんの方の感想をもらって、本当に話せてよかったと思っています。

実は、私は小学校に入る前から、大空、夜空の星を見るのが大好きでした。宇宙を考えることも、清川砂田の上空を飛ぶ飛行機の爆音を聞きながら、パイロットに憧れる、夢多き、可愛い少年、そして野山を駆けめぐる元気な鼻たれ小僧でした。当時、情報源もなく、パイロットになる方法がまったく分からない状態でした。

小学校の卒業文集に「将来の夢、一、パイロット、二、野球選手、と書いたことを思い出します。野球は清川北中学校で十分やりました。同じ41卒の後藤俊ちゃん、三浦広光ちゃんとともにです。二年生の新人戦、大野郡大会で優勝し、県大会に出場、ピッチャーで六回まで投げました。(一失点と好投?)」

(貴重な体験・郡大会の決勝戦で、他校の女子中学生二人が近づいてきて、サイン下さいとノートを出したのに無視してしまいました。幼かったなあ!)
飛行(パイロット)幹部候補生として海自航空部隊に入隊して、現役時代、パイロットとして、機長としての総飛行時間は約一万二千時間です。(当時、第一線のナンバー(第一〜第一パイロットはいない))

オホーツク海上空での監視ミッションでは、ソ連領空に近づくとレシーバーにUHF帯の周波数で、ロシア語が「ガンガン」と響いてきます。ソ連ミグ戦闘機のスクランブル(緊急発進)です。一機は私の機の真後ろに着いてミサイル・ロケット(いつでも発射できる状態)、もう一機はソ連パイロットの変顔がよく確認できるぐらい私(機長席)のすぐ横に「ピタッ」と張り付くなど、非常に緊迫した状況など、厳しい悪天候の中ミッションを完了し、母基地に帰投しても、やはり天候の悪化で着陸できず、燃料ギリギリで沖繩の飛行場に緊急着陸、よく生きながらえています。

もう一機はソ連パイロットの変顔がよく確認できるぐらい私(機長席)のすぐ横に「ピタッ」と張り付くなど、非常に緊迫した状況など、厳しい悪天候の中ミッションを完了し、母基地に帰投しても、やはり天候の悪化で着陸できず、燃料ギリギリで沖繩の飛行場に緊急着陸、よく生きながらえています。



東京オリンピックでボランティア

有事即応態勢の実力向上のため、過酷な状況にも関わらず、果敢にミッションを遂行しながら、発生する様々な緊急事態に対処して、無事故飛行を継続した極めて貴重な体験は、私の心の中にずっと生き続けています。(ありがとう！ 現役時代に関係した全ての皆さん、ありがとう！ 愛しきP3-C、P1-2J)...

若い一番脂の乗っている二代後半(パイロット技量に絶対的自信を持っていた頃)、最も重要なタックミッションASW(対潜水艦) 戦術の全海自航空隊対抗競技大会に第一航空隊代表パイロットとして参加し、優勝することができました。トップガンです。

パイロット学生の主任教官、教官の指導教官、川崎重工業での新造機、定期修理機をテストするパイロット、群司令部での舞台指導などの役職を経て、無事に現役を終了しました。(現役終了に軟着陸しました)
「大空にカンパイ」です!!
注：ヘリパイロットの北條陽一郎先輩、お元気ですか?

私の竹田散策



川口 和夫さん
(昭41年卒)

昭和41年卒の川口和夫と申します。駅裏のトンネルを抜けた辺りの鏡という地区から竹田高校に通っておりました。まだ実家がありますので、数年毎に竹田に帰らせていただいております。

この数十年、驚いたのは道路がスゴク立派になったことです。私が子供だった頃は国道さえもデコボコ道で、バスなどはそれこそガタゴトと走っておりますが。今は市内全域にアスファルトの舗装道路が整備されております。



私には毎年恒例だった40km競歩大会の道々長湯温泉、久住、城原などのデコボコ道の記憶がありますので、その変化はまさに驚きでもあります。

しかし盆地の中の町並みにはその頃がそのまま残っている、

いや人口減少もあって次第に歯抜けになり、昔の賑やかさはどこに?といった感じは、皆さんも抱かれたかも知れません。竹田が故郷の私などには変わらない町は有り難いのですが、町全体を思うとそこは複雑です。市長さんを中心に、今、竹田に住んでいる皆さんで頑張つて智慧を出し合う町作り・故郷再生をお願いしたいところです。グラントツけた(拜田原の旧市民会館)や町なかに新設された図書館などを中心に文化・音楽・芸術の町作りなども考えられていくようです。さて私達500名も卒業して全国各地に散らばることになり、勉強は今一だった小生も鉄鋼会社のサラリーマンとして人生のほとんどを過ごしてきましたが、私達同級生は非常に団結が固くて、ほぼ3年毎に、最近ではコロナ禍で中断しておりますが、東京、大阪、大分そして竹田での同級会に100名前後が集まっています。これはいつまでも持ち続けておきたい友情や故郷への愛などの目に見えない財産です。そんな私は帰郷するとかなら

い



岡城の四季

ず町中や周辺を歩き回ることにしています。

まずは天下の名城・岡城です。最近城周りの樹木等の伐採が進み、昔のままの難攻不落の石垣が現れ、西の丸の家老屋敷跡なども再現されて、一段と立派な観光名所になりました。そして本丸に登ると北にくじゅう連峰、西に阿蘇山、南に祖母・傾山、そして東に三宅山、神角寺山の一大展望が広がり、「そうだな。ここが故郷だよ」という思いが胸一杯に広がってきます。最近では、朝地から用作公園、挾田・十川、そして岡城とかつての参勤交代路を歩くオルレの道なども作られています。さて本丸横の名曲「荒城の

月」などで知られた瀧廉太郎の像にご挨拶して、小生の実家があった茶屋の辻から旧玉来街道を町中に下りる道を歩いていきます。

周囲1kmほどのコンパクトな町並みですから小一時間も歩けば一周できます。

軍神廣瀬中佐を祭る廣瀬神社、武家屋敷街、切支丹洞窟礼拝堂はほぼ昔どおりで。今は竹田キリシタン研究所なるモノもあるようです。最近では旧竹田荘とエレベーターでつながれた隈研吾さん設計の歴史資料展示館が新名所になりました。

瀧廉太郎の旧居、愛染堂、本町、古町には大きな変わりはない、新名所、萩・丸福の唐揚げ店が賑わい、今はバスが町中を走ることになりました。

最後に稲葉川の橋のたもとに画聖・田能村竹田の像の向こうに、昔と変わらぬ豊後竹田駅、そして城原井路末流の落門の滝



田能村竹田像



が垂直に崖から落ちています。

思い出を辿つて今を知る町歩きが私の竹田散歩です。そんな現在の竹田の状況をご報告とさせていただきます。大合併した周辺の長湯、久住、萩などもそれぞれに農業地、観光地などとして発展しております。稲葉ダムに続いて治水の玉来ダムも完成し、中九州横断道路の熊本・菊池への延伸も決まり、町全体の基盤作りも着実に進展しています。

ちよつと寂しくはなりましたが、大自然の中の昔からの城下町、本当に良い所です。皆さんにもこれからです故郷竹田の応援をお願いしたいと思います。



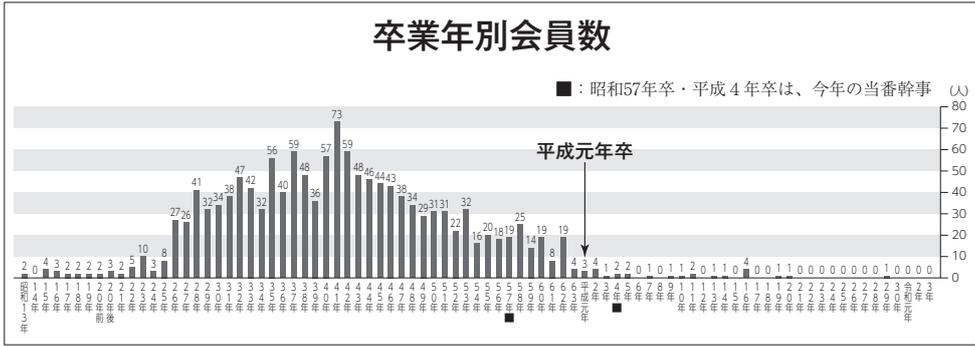
明治元年の岡城(矢野写真館撮影)

組織委員会より ご協力のお願い

組織委員長 飯田良典(昭51年卒)

◆新会員の確保が急務です

関東同窓会会員の皆様には日ごろよりご支援ご協力をいただき感謝申し上げます。



- ### アンケート内容
- A. 今後の関東同窓会に期待すること
 1. これまで通りの活動を継続して欲しい
 2. もっと故郷や母校に貢献して欲しい
 3. もっと関東の同窓生の情報や交流を望む
 - B. コロナも落ち着いた今年、または来年に
 1. 同級会を検討中、又は決定している
 2. 部活などのOB会を計画している
 3. 今後も考えていない
 - C. 活動報告や会計報告から、維持会費年間一口5000円について
 1. 安いと感じる
 2. 高いと感じる
 3. 妥当だと思う
 - D. 関東同窓会の活動内容について
 1. 理解している
 2. まあまあ理解している
 3. よくわからない
 - E. 会報誌や同窓会情報をメールやLINEなどSNSを活用する
 1. 賛成する
 2. 現状のまま(紙に印刷)が良い
 3. どちらでも良い
 - F. 関東同窓会のホームページについて
 1. 良く見ている
 2. たまに見る
 3. 見たことが無い
 - G. 会員確保の為に関東以外にも会員網を拡げる
 1. 賛成する
 2. 反対する
 3. どちらでも良い
 - H. 懇親会で見たいイベントはありますか
 - I. 関東同窓会へのご意見をお聞かせ下さい

アンケートのご回答は、別紙「アンケート用紙」から
 ①スマートフォンのカメラで、QRコードを撮影
 ②パソコンで、URLを入力 ③郵送 ④FAX
 以上の4通りからお選びください。
※QRコードは、㈱デンソーウェーブの登録商標です。

現在、当同窓会の名簿上の会員数は約1,400名。今日現在の「卒業年別」による会員構成はグラフの通りです。昭和41年卒業の会員数をピークにその後減少、特に平成元年卒以降は極端に少なくなりました。

その要因はいくつかあります。コロナ禍で、総会・懇親会が34、35回と中止になり招集の機会を逸しました。また最近は個人情報取り扱いに厳しくなり、同窓会名簿が入手できません。更に、生徒数や関東方面への進学者数の減少などです。このままでは復活した関東同窓会

の活動も不安定になります。組織担当は、会員数の確保を急務として、各学年幹事の皆様を始め、各方面にお声掛けしながら、新会員の勧誘に努めます。会員の皆様にもぜひご協力をお願い申し上げます。(ご紹介は、出欠ハガキ裏面、またはホームページをご活用ください)

◆新しい時代の関東同窓会を探る(アンケートにご協力ください)

さて、関東同窓会も今年で37年目となります。「関東で活躍する同窓生の親睦と、母校の発展に寄与する」事を目的として、会員による維持会費のご支援だけで成り立たせてきました。どこにも依存せず、独立性を保ち、その会計も適切に開示

して参りました。そして母校への設備支援や修学旅行生との交流、「大志文庫」への協力についても、総会や会報誌「臥牛」でご報告してきた通りです。

そして当会は、3年後に節目の40周年を迎えます。既に会員としてお支えしていただいている皆様には今後もお元気で、末永く見守っていただけることを心よりお願い申し上げます。

最後に、当同窓会も新しい時代を見据え、デジタルも駆使しながら今後も継続する道を探る時期にきています。ここで、会員の皆様にもこれからの同窓会についてのご意見をお聞きして参考にさせていただきますのでご協力をお願いいたします。

ご回答は、別紙のアンケート用紙をご活用ください。

●連絡先●
 〒181-0003
 東京都三鷹市北野2-13-22
 (広報委員長) 衛藤 淳 宛
 TEL 090-9159-7231
 FAX 0422-43-7762

氏名	卒年	没年
佐藤 和範様	昭26年卒	2020年1月29日没
阿南 雄二様	昭24年卒	不明
菅野 律子様	昭39年卒	2021年1月10日没
御沓 一敏様	昭37年卒	2022年5月1日没
阿南 一成様	昭31年卒	2023年1月5日没
佐藤 清一様	昭26年卒	2022年9月6日没
大崎 敏夫様	昭32年卒	2022年7月31日没
村松 日様	昭25年卒	2022年9月9日没
湯野 隆子様	昭23年卒	2022年10月27日没
工藤 春江様	昭35年卒	2019年12月2日没
工藤 廣様	昭30年卒	2022年1月24日没
八木 國晴様	昭29年卒	2022年2月21日没
金山 豊美様	昭31年卒	2017年11月18日没

物故者御芳名 ※順不同
 2023年3月29日現在
 慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。